

して施行せられよ。須らく咨に至るべき者なり。

右、福建等処承宣布政使司に咨す

乾隆十三年（一七四八）十一月二十四日

2-29-19

国王尚敬の、進貢のため都通事梁煌等に付した符文

（乾隆十三《一七四八》、十一、二十四）

琉球国中山王尚（敬）、進貢の事の為にす。

照得するに、敝国、世々天朝の洪恩に沐し、貢典に遵依して二年一次すること、欽遵して案に在り。査するに、乾隆十三年は乃ち進貢の期に当たれば、特に耳目官向永成・正議大夫鄭秉哲・都通事梁煌等を遣わし、表咨を齎捧し、海船二隻に坐駕し、官伴・水梢共に二百員名を過ぎざるを率領し、常貢の煎熟硫黄一万二千六百觔・紅銅三千觔・煉熟白剛錫一千觔を装運し、両船に分載す。一船は礼字第五十一号、煎熟硫黄六千三百觔・紅銅一千五百觔・煉熟白剛錫五百觔を装載す。一船は礼字第五十二号、煎熟硫黄六千三百觔・紅銅一千五百觔・煉熟白剛錫五百觔を装載す。前みて福建等処承宣布政使司に至りて投納し、起送して京に赴き、聖禮を叩祝せんとす。

所抛の差去せる員役は、文憑無ければ、各処の官軍の阻留して

便ならざるを恐る。此れが為に理として合に符文を給発し、以て通行に便ならしむべし。今、王府、礼字第五十号の半印勘合符文を給し、都通事梁煌等に付して収執して前去せしむ。如し経過の関津及び沿海の巡哨官軍の驗実如遇えば、即便に放行し、留難して遲悞するを得る母かれ。須らく符文に至るべき者なり。

計開す、京に赴く

正使耳目官一員 向永成 人伴一十二名

副使正議大夫一員 鄭秉哲 人伴一十二名

都通事一員 梁煌 人伴七名

在船使者四員 ^①向廷極 ^②毛景功 人伴一十六名

存留通事一員 ^④蔡光祖 人伴六名

在船都通事二員 ^⑤鄭秉和 ^⑥梁琴 人伴八名

在船通事一員 ^⑦鄭近仁 人伴四名

管船火長・直庫四名 ^⑧金台 ^⑨馬利航

水梢共に一百二十名 ^⑩魏宗綸 ^⑪和承烈

右の符文は都通事梁煌等に付し、此れを准ず

乾隆十三年（一七四八）十一月二十四日

注(1) 向廷極 乾隆十三年の在船使者。『宝案』では乾隆十九年の結状

に紫巾官（卷三六）として名がみえる。

(2) 毛景功 乾隆十三年の在船使者。

(3) 毛開烈 賀数親雲上盛方（『家譜』二〇）四六一頁、陳以桂の譜。

『宝案』では他に乾隆三十三年の在船使者として名がみえる。

- (4) 蔡光祖 康熙五十(乾隆三十一年(一七一)~六六)。久米村系蔡氏十二世(仲井真家)。仲井真親雲上。乾隆二十七年に中議大夫に陞る。乾隆元年に読書習礼のため福建に赴く。十三年の存留通事、二十一年の都通事、三十一年の朝京都通事となるが、福建に赴く前に没した(『家譜(二)』三三八頁)。
- (5) 鄭近仁 池宮城里之子親雲上(『家譜(二)』六八一頁、鄭維翰の譜)。乾隆十三年の在船通事。
- (6) 金台 康熙五十二(乾隆二十六年(一七二)~六一)。久米村系金氏十二世(阿波連家)。乾隆十三年の管船火長(総管)(『家譜(二)』八五頁)。
- (7) 魏宗絢 康熙五十三年(一七一四) ~? 久米村系魏氏六世(慶佐次家)。高嶺里之子親雲上。乾隆十三年に管船火長(総管)、十七年に読書習礼のために福建に渡る(『家譜(二)』三四頁)。

2-29-20

国王尚敬の、進貢のため存留通事蔡光祖等に付した執照(頭号船)(乾隆十三《一七四八》、十一、二十四)

琉球国中山王尚(敬)、進貢の事の為にす。

照得するに、敝国、世々天朝の洪恩に沐し、貢典に遵依して二年一次すること、欽遵して案に在り。茲に乾隆十三年の貢期に当たれば、特に耳目官向永成・正義大夫鄭秉哲・都通事梁煌等を遣わし、表咨を齎捧し、海船二隻に坐駕し、官伴・水梢共に二百員

名を過ぎざるを率領し、常貢の煎熟硫黄一万二千六百觔・紅銅三千觔・煉熟白剛錫一千觔を装運し、両船に分載す。一船は礼字第五十一号、煎熟硫黄六千三百觔・紅銅一千五百觔・煉熟白剛錫五百觔を装載す。一船は礼字第五十二号、煎熟硫黄六千三百觔・紅銅一千五百觔・煉熟白剛錫五百觔を装載す。前みて福建等処承宣布政使司に至りて投納し、起送して京に赴き、聖禧を叩祝せんとす。

所抛の差去せる員役は、文憑無ければ、各処の官軍の阻留して便ならざるを恐る。此れが為に理として合に執照を給発し、以て通行に便ならしむべし。今、王府、礼字第五十一号の半印勘合執照を給し、存留通事蔡光祖等に付して収執して前去せしむ。如し経過の関津及び沿海の巡哨官軍の験実如遇えば、即便に放行し、留難して遅慢するを得る母かれ。須らく執照に至るべき者なり。

計開す

正使耳目官一員	向永成	人伴一十二名
副使正義大夫一員	鄭秉哲	人伴一十二名
都通事一員	梁煌	人伴七名
在船都通事一員	梁琴	人伴四名
在船使者二員	向廷極 毛景功	人伴八名
存留通事一員	蔡光祖	人伴六名
管船火長・直庫二員	金台 馬利航	
水梢共に五十九名		